

SMA (脊髄性筋萎縮症) をご存じですか？

からだを動かすとき、筋肉の動きは運動神経によって調節されています。SMAは、この運動神経が変化または消失していくことで、筋肉の力が弱まり、運動機能が障害される病気です。SMAを有する患者さんの割合は10万人に1人とされています¹⁾。

■SMAのタイプと症状

SMAの未治療の自然経過は、「発症する時期」と「到達できる最も高い運動機能」によって4つのタイプに分けられます。

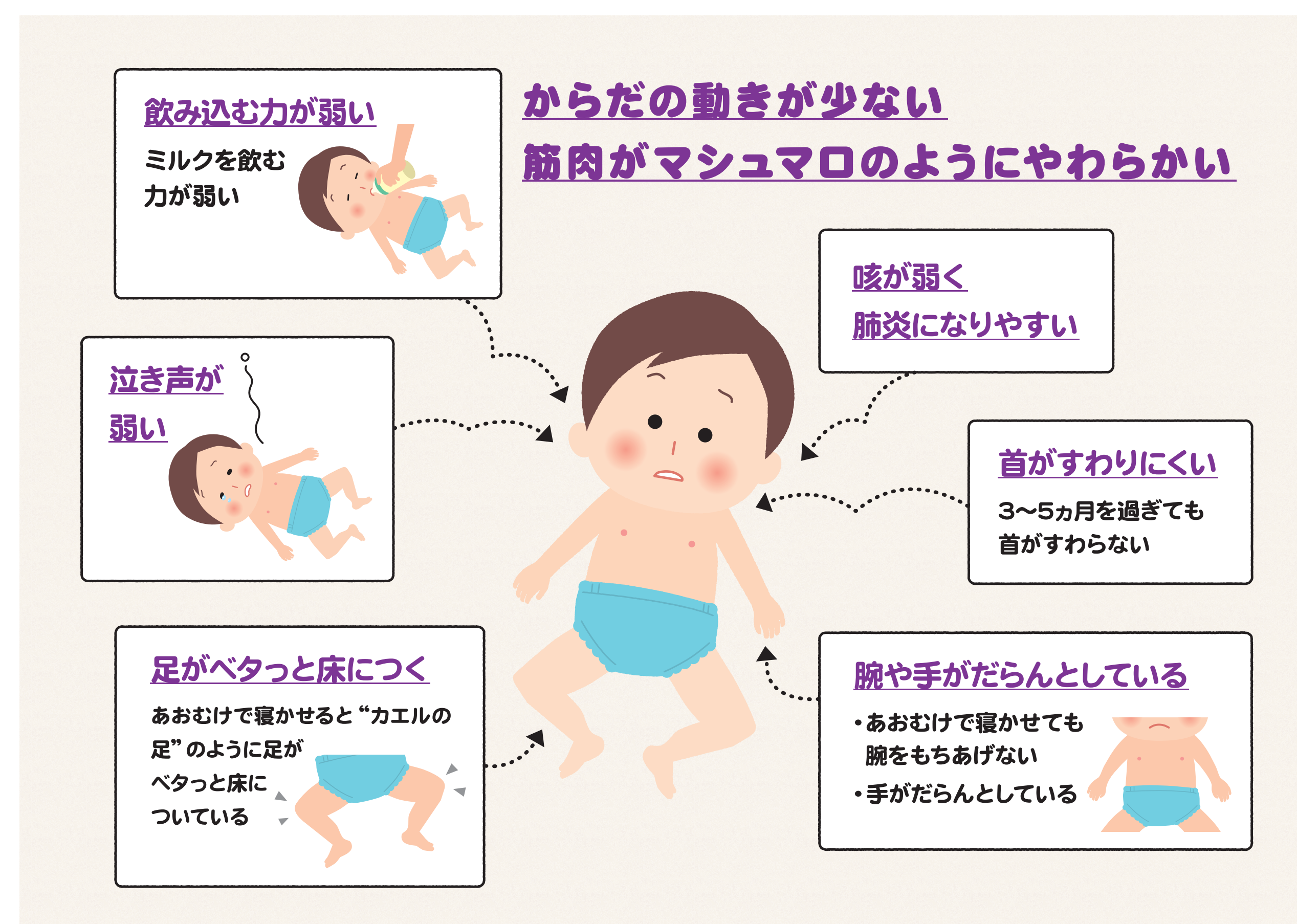
タイプ	発症の時期	到達できる最も高い運動機能	
I型 (重症型)	生後 0～6ヵ月	「支えなしで座る」ことができない	
II型 (中間型)	生後 7～18ヵ月	「支えなしで座る」ことはできるが、 「自力で立つ」ことはできない	
III型 (軽症型)	生後 18ヵ月以降	「ひとりで歩く」ことができる (次第に歩けなくなることがある)	
IV型 (成人型)	成人 (20歳以上)	「ひとりで歩く」ことができる (症状の進行はゆっくりである)	

SMAは進行性の疾患です。SMA未治療の場合、出生直後から運動神経の喪失がみられます。しかし、治療を開始した時期が早ければ早いほど、治療効果が高いことがわかっています²⁾。

早い段階で症状に気づき、適切な診断のもと治療を行うことが重要です。気になる場合はすぐに医師または医療従事者へ相談することをお勧めします。

■SMAにおける「筋緊張低下」

乳幼児期に発症するSMAでみられる症状の1つに「筋緊張低下」があります。



—SMA患者さんご家族のお話



“情報”と“人のつながり”を通じて
SMA 家族を支える

SMA 家族の会
大山有子さん



不安に感じたら、
“親の勘”を
信じて相談

西さんご夫婦
3歳の息子さん、
9か月の娘さんとともに



治療とリハビリの
おかげで、楽しく
暮らせる毎日に感謝

SMA 患者さん
ご家族のお話
佐藤さんご家族とともに



詳しくはこちらを
ご覧ください



わかりやすく解説しています。

スマートアイズ SMA

<https://smarteyes.baby/>



 NOVARTIS